

令和7年度富山市SDGs未来都市戦略会議 議事録

日 時 令和7年10月20日（月）10時30分～12時

場 所 Toyama Sakuraビル5階 大会議室

出席者

<委員> (五十音順・敬称略)

氏名	団体名・役職	備考
青木 一益	富山大学学術研究部社会科学系 教授	副会長
石本 毅	北陸電力株式会社 理事 営業本部 営業本部室長	
上坂 博亨	富山国際大学現代社会学部 教授	
浦崎 滋	株式会社北陸銀行 取締役 執行役員	
(代理：島田 善朗)		
岡地 聡	社会福祉法人富山市社会福祉協議会 専務理事	
北岡 勝	富山市自治振興連絡協議会 会長	
齋藤 滋	富山大学 学長	
堺 勇人	一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 常務理事	
(代理：東澤 善樹)		
品川 祐一郎	株式会社品川グループ本社 代表取締役社長	
(代理：宮崎 慎一郎)		
新庄 一洋	富山地方鉄道株式会社 専務取締役	
(代理：興水 一紀)		
谷口 庄一郎	株式会社インテック 専務執行役員	会長
土屋 誠	日本海ガス株式会社 取締役会長	
沼田 雅博	一般財団法人北陸経済研究所 理事長	
(代理：河原 嘉人)		
長谷川 春生	富山大学大学院 教職実践開発研究科 教授	
藤井 裕久	富山市長	
	東北大学 グリーン未来創造機構・大学院生命科学研究科	
藤田 香	教授、富山大学 客員教授	
	株式会社日経BP 日経ESGフェロー	
牧田 栄一	富山市政策監	副会長
村上 久	日本貿易振興機構富山貿易情報センター 所長	
若木 洋介	北酸株式会社 環境エネルギー部長	

欠席：久保田 善明 委員

<事務局>

企画管理部次長、企画管理部参事（企画調整課長）、余川主幹、河上主任、小湊主任、財務部次長、防災危機管理部次長、福祉保健部次長、こども家庭部次長、市民生活部次長、環境部次長、商工労働部次長、農林水産部次長、活力都市創造部次長、建設部次長、病院事業局管理部次長、上下水道局次長、教育委員会事務局次長、消防局次長

次第

- 1 開 会
- 2 議 題

(1) 富山市のSDGs普及展開等の取組状況について（報告）

- (2) 第2次富山市SDGs未来都市計画に関連する主な事業及びKPIの達成状況について（報告）
- (3) 「第2次富山市SDGs未来都市計画」終了後のSDGs推進体制について
- (4) その他（意見交換等）

3 閉 会

配布資料

令和7年度富山市SDGs未来都市戦略会議 次第
富山市SDGs未来都市戦略会議 委員名簿
富山市SDGs未来都市戦略会議 席次表
富山市のSDGs普及展開等の取組状況【資料1】
第2次富山市SDGs未来都市計画に関連する主な事業【資料2】
第2次富山市SDGs未来都市計画におけるKPIの達成状況【資料3】
「第2次富山市SDGs未来都市計画」終了後のSDGs推進体制について【資料4】
本日の意見交換のポイント【資料5】
SDGsに取り組む各種団体等の特集記事 【参考資料1】
富山市SDGs未来都市戦略会議設置要綱 【参考資料2】

議事内容

1. 開会

- (1) 藤井富山市長より開会挨拶。
- (2) 事務局より、配布資料について確認。
- (3) 本会議の副会長として、上坂委員及び牧田委員が選任されていることについて確認。
- (4) 代理の議長として、上坂委員が選任され、以降、上坂議長の進行により議題を進めた。

2. 議題

- (1) 富山市のSDGs普及展開等の取組状況について
事務局より、資料1「富山市のSDGs普及展開等の取組状況」を説明。
- (2) 第2次富山市SDGs未来都市計画に関連する主な事業及びKPIの達成状況について
事務局より、資料2「第2次富山市SDGs未来都市計画に関連する主な事業」、資料3「第2次富山市SDGs未来都市計画におけるKPIの達成状況」を説明。
- (3) 「第2次富山市SDGs未来都市計画」終了後のSDGs推進体制について
事務局より、資料4「『第2次富山市SDGs未来都市計画』終了後のSDGs推進体制について」を説明。
- (4) その他（意見交換等）
事務局より、資料5「本日の意見交換のポイント」を説明。

【議長】

- ・ 資料5「本日の意見交換のポイント」を参考に、意見のある方から順に、挙手いただきご意見

をお伺いしたい。

【委員】

- ・脱炭素の次に世界的に注目を浴びている生態系保全、「ネイチャーポジティブ」という世界目標があり、様々な自治体がネイチャーポジティブ宣言を出し始めている。県内で宣言している自治体はないが、富山市にも是非取り組んでいただきたい。
- ・私自身は、黒部川流域でネイチャーポジティブプロジェクトを始めた。流域にある企業や自治体に関わるものであるため、富山市もSDGsの一環として取り組むと面白いのではないかな。生態系保全は、生物を守ることだけでなく、洪水防止やヒートアイランド防止、暮らしの面では福祉にも関係がある。
- ・SDGsの「認知・理解」が広がってきていることは素晴らしい。「実践・行動」につなげていくために必要なことは、脱炭素や生態系保全などに取り組むことが、企業価値向上や地域の価値向上に結びつく仕組みだと考えている。単に国連が掲げていて良いことだから、社会的責任だから、だけでは続かないのではないかな。
- ・中小企業の実組拡大については、地方銀行が行う様々な取組に期待したい。
- ・小中学生やユース世代に向けた取組として必要なことは、SDGs修学旅行など、他の地域との交流を促進することだと考えている。また、小中学生やユース世代が、良い取組を国際的な場や国連の場、万博などで発表できる機会を設けてほしい。
- ・私自身、大学の授業で、SDGsに取り組んでいる企業、現場、工場などに行く授業をしている。関係者の連携の場の創出や拡大、さらに多くの多様な方の参画を広げていくためには、出張授業のような形で、現場に学生が行き、SDGsの何番のゴールとどう関係して実際の現場でどのようなになっているのかわかるような授業を展開していくことが重要だと考えている。

【委員】

- ・第3次富山市SDGs未来都市計画を策定しないということは、来年以降、富山市はSDGs未来都市ではなくなるという理解でよいのか。その場合、環境モデル都市、環境未来都市、そしてSDGs未来都市、これらの発展系における政策展開を終了するという理解でよいのか。
- ・低炭素・脱炭素、そして持続可能性に関する点に関し、国に認定され、先進自治体として取り組んできたという市内外に対し訴求力のあるストーリー及び政策展開がなくなることによって、富山市の市政として、コンパクトシティ政策一択になるのか、それとも、SDGs未来都市までの政策展開を代替するようなストーリー展開などがあるのか。
- ・仮に前述の代替する展開がない場合は、第3次富山市SDGs未来都市計画を策定せず、SDGs未来都市でなくなるということは、積極的に終了するということになるが、そうではなくて消極的に継続するという選択肢もあったのではないかな。なぜ、今回第3次富山市SDGs未来都市計画を策定しないという意思決定がなされたのか。これに対し、例えば、市民からどのような意見があったのか、議会からどのような反応があったのか、これらについて教えてほしい。

【事務局】

- ・SDGs 未来都市単体として進めていくことを終了するだけである。SDGの普及展開を図りながら市民の理解、醸成を図ってきて、一定程度の理解が高まってきたと考えており、今後は何かモデルになるような事業をより進めていくことが必要と考えている。それにあたり、本市と同じようにSDGs 未来都市に選定されている自治体の事例を調べたところ、うまくいっている自治体は単体で進めるのではなく、市の総合計画や総合戦略といった大きな計画とSDGsの取組を一体的に進めている。これをヒントに、よりSDGsの取組を推進していくことができるよう、この度の第3次富山市総合計画と一元化して策定する方針となった。つまり、SDGs 未来都市でなくなるわけでもなく、KPIの設定を終了するというわけでもない。

【委員】

- ・富山県は全国的に見てもSDGsの認識が高い地域であり、富山市は、SDGs推進に非常に積極的に取り組んでいることから、啓蒙を含めて、スタートラインとしてはうまくいっている。次の実践に結びつけていくためにはどうするのが重要なポイントである。
- ・企業向けSDGs アンケート調査の「企業がSDGsに取り組んでいる主な目的」の上位が「CSRを果たすため」であることは残念である。上場企業では、CSV的な発想を持っている。SDGsがしっかり儲かる仕組みなんだというところまで考えられながら進められているかどうか、あと一歩実践的に進めていく中では、肝になってくると考えている。
- ・弊社の取組としては、サステナブルファイナンスのようなもので上達する企業が増えてきているため、「サステナビリティ・リンク・ローン」や「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」といった商品を活用してもらっている。また、取組に必要な人材が不足している企業が多いので、そこを金融機関として伴走支援している。
- ・また、カーボンクレジットのプログラムを立ち上げている。経済的合理性やBCPのために太陽光発電を設置しているお客様に対し、実は環境価値が生まれており、それがお金になるということを仲介している。
- ・企業向けSDGs アンケート調査の「企業がSDGsに取り組んで得られた効果・メリット」で、「社内モチベーションの向上」が上位ということが興味深い。学生は、会社としてSDGsにどのように取り組んでいるのか興味を深く持っているため、新規採用のときにはそこをアピールしながら進めていくということは重要だと考えている。
- ・企業向けSDGs アンケート調査の「企業がSDGsに取り組むに当たっての課題」の項目にある「新商品や新サービスの新規販路の開拓が困難なこと」も興味深い。富山市のふるさと納税の商品で、サステナブル商品を扱う特集ページのようなものを組むというのもありなのではないか。サステナブル商品は付加価値が高いが、その付加価値に対してお客さんは中々お金を払わない状況である。その点ふるさと納税であれば、良いものであれば一度やってみようかという思いになる。富山市のふるさと納税の返礼品としてPRし、最終的に企業が通常の市場に販売していくという方法もあるのではないかな。

【委員】

- ・SDGsの認知度を上げていくことと並行して、実践していくことが非常に重要だと考えてい

る。エネルギー事業者の立場としては、再生可能エネルギーの地産地消の推進が必要だと考えている。

- ・ 弊社の取組としては、市有遊休地などを活用した太陽光発電の導入、農業と太陽光発電をセットで行うソーラーシェアリングなどを行っている。また、太陽光発電のみでは賄うことのできない部分に対しては、環境価値を当てながら脱炭素化していくような取組支援も行っている。
- ・ 中小企業の取組の拡大については、再生可能エネルギー導入をどう進めていいかわからないという声を聞くため、省エネコンサルや、CO₂の見える化などにより、SDGsに努めている。設備投資には費用がかかるため、補助金があれば後押しになり良いのではないかな。
- ・ 若い世代への認知については、委員のそれぞれの持ち場でも行っていくべきだと考えている。弊社の取組としては、市内の小学校から大学を対象に約19回、延べ約765名の生徒を対象に出前講座を行った実績がある。このような活動を地道に行うことも必要と考えており、引き続き行っていく。

【委員】

- ・ 資料3の「第2次富山市SDGs未来都市計画におけるKPIの達成状況」の「富山市センサーネットワークを活用した実証実験公募採択数」の令和7年度目標値が40事業となっているが、順調であるためか、直近令和6年度実績が87事業になっている。なぜ目標値は40事業としたのか。
- ・ 当機構の取組として、万博での関わりがある。国外での万博の日本関係は当機構で運営している。日本での万博では、各種団体が当機構事務局に人材を派遣するなど様々な形で貢献している。関西大阪万博の際には、イベントサステナビリティ管理システムという手法を盛り込み、国際博覧会協会の中に持続可能性局を設け、様々な取組を行った。富山市で行う大規模イベントの際にもこのような取組を取り込んではどうかな。
- ・ 今年、横浜で「アフリカ開発会議（TICAD）」が開催され、当機構としても、ビジネスと人権、ビジネスとサプライチェーンというような観点で、ビジネス関係の様々なプログラムを展開した。このようなことを踏まえ、海外へビジネスに関する情報発信をしており、「世界は今-JETRO Global Eye」というコンテンツの中では、アフリカとのビジネスということで、様々な課題、例えば道路事情やごみ問題、水問題、或いは人口が伸びていく中での農業生産支援など、それらが日本企業にとってもチャンスであるということを発信している。

【事務局】

- ・ 「富山市センサーネットワークを活用した実証実験公募採択数」の令和7年度目標値については、民間企業からどの程度需要があるのか把握しづらかったため、結果として想定が低いものとなってしまった。しかし、言い換えれば、想定した以上に富山市を実証実験の場として選び活用、実験をしていただいているという理解をしている。

【委員】

- ・ 弊社の取組として、オフィスの購入可能な電力については再生エネルギーの活用を順次進めて

おり、ほぼ完了した。

- ・弊社のグループ会社で呉羽梨の栽培と出荷をしている。障害者雇用の一環で始めたが、規模が大きくなり、富山市のふるさと納税の返礼品としても活用されている。呉羽では、農業従事者の高齢化が進み、持続ができなくなったような方も、移管を受けて代替する形で事業化を進めている。
- ・小中学生やユース世代へ向けた取組や多様な方の参画を広げていくためにできることについては、データ化をするということが非常に重要だと考える。市の広報誌やテレビ、新聞だけでなく、市のSNSやYouTubeでも、持っているデータをしっかり発信し、コメントや意見をもらうということが大事だと考える。市内外の方から注目を浴びるという意味でも、しっかり情報公開をして、データとして、ネットで目に触れるということが非常に大事だと考える。

【委員】

- ・もっと広報に力を入れたほうが良い。富山市は、一番最初全国に先駆けて産後ケアの取組を行うなど素晴らしいことをやってきたにも関わらず、あまり富山市の取組が言われていない。富山市は良い所だ、だからここに住んで子育てしようと、そういう思いになってもらうための広報をしてほしい。
- ・必ずデータを取り、このような取組をしたことによってこれだけ改善しているんだということがわかると、一部の地区だけではなくて、全市でそれを行うことにつながる。全ての事業についてPDCAを回し、やるだけでなくその効果を一度見たうえで、経済効果のみならず、市民にも返ってくるということも広報していただきたい。
- ・「産学官民」と言うように国民が含まれているため、市民の皆さんと一緒に事業を進めるという意識づけを高めていくということが、SDGs事業を推進するにあたり重要である。
- ・富山市は、綺麗だとよく言われる。日本人にも外国人にも広報することが大事で、広報して初めて富山市の良さを実感される。ネット配信などでPRしてほしい。

【委員】

- ・このSDGs未来都市戦略会議はこれまで9回の会議を開催し、第1次、第2次のSDGs未来都市計画の策定を初め、本市のSDGs推進に関する様々なご意見をいただくとともに委員それぞれの立場におけるSDGsの取り組み事例の情報共有の場としても大変重要な役割を果たしてきたと考えている。
- ・ネイチャーポジティブについては、本市も勉強し、どのように進めていけるか考えていきたい。
- ・「第2次富山市SDGs未来都市計画」の終了については、丁寧に説明していくことが大事だと考えており、議会や市民にわかりやすく説明していきたい。
- ・ふるさと納税の返礼品については、SDGsの観点からの商品開発も一つの大きな課題として考えていきたい。
- ・太陽光発電関連の実践においては、設備投資が必要となるため、補助金が大事だということで、国の補助金等も何が該当するか探しながら、該当の補助金がなければ、整備してもらうように求めていくということを進めていきたい。

- ・世界的な視野での問題、課題を見ながら、日本企業がどう動いていくのかという話があったため、本市でも注視していきたい。
- ・情報の発信が大切だということで、情報発信に気を付けていきたい。
- ・本市は広報が下手だということを、自分たちも理解している。新たなものを展開することも大事だが、今あるものをしっかり説明しPRして使ってもらうことも大事であるため、PRに関しては力を入れてやっていきたい。
- ・事務局から説明があった通り、SDGsの市民の認知度が1割から9割に上がっており、企業においても様々なSDGsの取組が行われるようになってきていることから、本市の取組が、一定の成果を得られているものと考えている。一方で、SDGsは、2030年末までの達成期限まで残り5年しか残されておらず、進捗状況は危機的状況と言われている。今後は、SDGsを知るだけではなく、より深く理解し、市民一人一人がSDGsを自分事として、実践していくことが重要になってくるものと考えている。本市のSDGs未来都市計画の総合計画への統合により、この戦略会議も、今回で最後の開催となるが、今後も全庁一丸となって、企業や団体とも連携しながら、SDGs未来都市の取組を一層推進して参りたい。

【事務局】

- ・情報発信について、SNSやYouTubeの活用として令和5年度から富山市の公式LINEを作りSNSでの周知に取り組んではいるが、一方通行になりがちである。SNSのメリットである相互間の情報発信について、どのように取り組んでいけるかを部内でも検討しているところである。意見をいただいた通りぜひやっていきたいと考えている。

【議長】

- ・今までSDGsというものを周知していこう、認知度を高めていこうというプロセスを最初に踏み、それと同時に数値目標を作ってその数値を達成するために何かやっていこうという進め方をしてきた。おそらく今後はそのような目標を達成するということではなく、どのように進めていくのかというプロセスの中にSDGsを作り込んでいくというフェーズに入っていくのではないかと考えている。2030年で一旦区切りを付けられると思われるが、その後のポストSDGsに向かって、プロセス重視の枠組みづくりは、基本的には仕組み、組織づくりということに繋がっていくと考えられるため、そのような視点で見ていく必要がある。
- ・SDGsは、何となく善意ベースで語られてきていたが、そのようなものから大分脱却してきたと考えている。善意ベースだけではなく、経済合理性を踏まえた上での行動パターンで、なおかつその中に原理的な価値、つまり経済性と倫理性というものを両立したような行動様式を、プロセスとして作り込んでいくことが重要ではないかと考えている。それを次のステップで議論できればいい。
- ・事務局においては、これからも各委員からの意見を踏まえて、新しい取組、活動をしていただきたい。

3. 閉会